

13. 動学分析(2) サーチ

賃金-経験年数プロファイル

賃金-勤続年数プロファイル

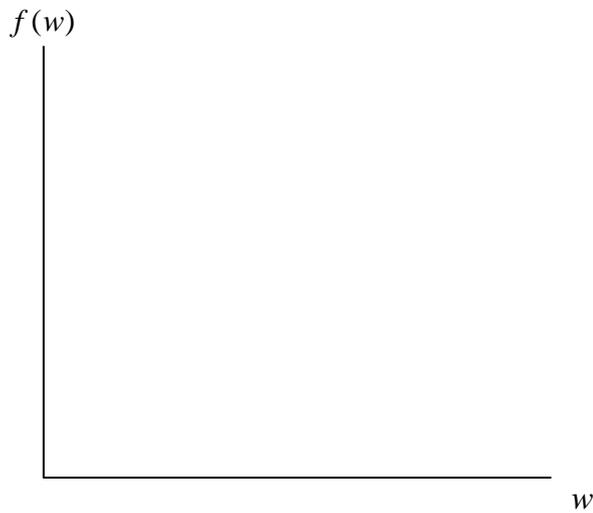
を説明する、人的資本投資理論以外の別の理論

「同一の仕事に対して、支払われる賃金が異なる」ことを説明できる。

「情報が不完全なとき、労働者がどの企業で、いくら賃金で働くことを決めるのか？」

13.1 単純なサーチモデル

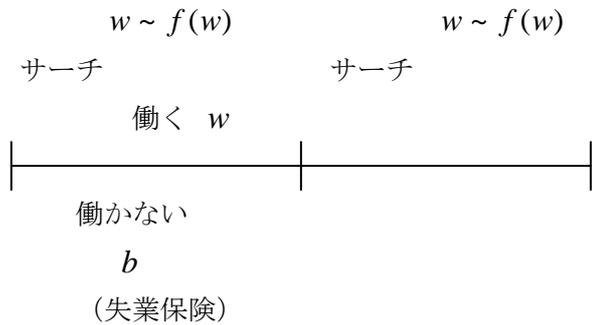
提示賃金分布



市場に属する企業が提示する賃金の分布  
(労働者はこの分布を知っている)

2 期間モデル

費用がかからないと仮定



第 1 期に働いた場合  
 { 新しい企業で働く  
 { 同じ企業で働く

働かなかった場合  
 提示された賃金で  
 働くかどうかを決める

労働者の最適化行動

2 期間の所得の現在価値の和を最大化するように行動

後ろ向きに解く。

第 1 期で働かなかった場合

$$l_2 = \begin{cases} 1 & (\text{働く}) & \text{if } w_2 \geq b \\ 0 & (\text{働かない}) & \text{if } w_2 < b \end{cases}$$

$$\begin{aligned} E[I_2 | \text{第 1 期に働かない}] &= \Pr(w_2 \geq b)E[w_2 | w_2 \geq b] \\ &\quad + (1 - \Pr(w_2 \geq b))b \\ &= \Pr(w_2 \geq b)(E[w_2 | w_2 \geq b] - b) + b \end{aligned}$$

第 1 期で働いた場合

$$l_2 = \begin{cases} 1 & (\text{働く}) & \text{if } w_2 \geq w_1 \\ 0 & (\text{働かない}) & \text{if } w_2 < w_1 \end{cases}$$

$$\begin{aligned} E[I_2 | \text{第 1 期に働いた}] &= \Pr(w_2 \geq w_1)E[w_2 | w_2 \geq w_1] \\ &\quad + (1 - \Pr(w_2 \geq w_1))w_1 \\ &= \Pr(w_2 \geq w_1)(E[w_2 | w_2 \geq w_1] - w_1) + w_1 \end{aligned}$$

第 1 期の最適行動

$w_1$  を観察したときに

$$l_1 = \begin{cases} 1 & (\text{働く}) \\ 0 & (\text{働かない}) \end{cases}$$

を選ぶ。

$$PV(l_1 = 1) = w_1 + \frac{\Pr(w_2 \geq w_1)(E[w_2 | w_2 \geq w_1] - w_1) + w_1}{1 + r}$$

$$PV(l_1 = 0) = b + \frac{\Pr(w_2 \geq b)(E[w_2 | w_2 \geq b] - b) + b}{1 + r}$$

$$l_1^* = \begin{cases} 1 & \text{if } w_1 \geq b \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

### 13.2 経験年数、勤続年数、賃金

		2					
		働く			働かない		
1	働く	(a)	(d)	(c)			
		経	0	1	1	0	1
		勤	0	1 or 0		0	1
	賃	$w_1$	$w_1$	$w_2$	$w_1$	$b$	
	働かない	(b)					
		経	0	0		0	0
勤		0	0		0	0	
賃	$b$	$w_2$		$b$	$b$		

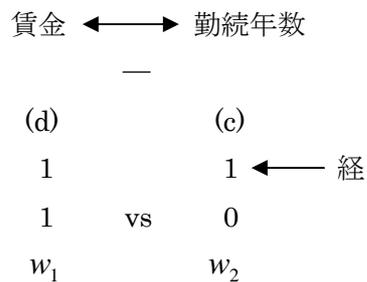
(1) 同じ企業にとどまった

労働者の賃金は、勤続年数 (0 or 1) に関わらず、同じ ( $w_1$ )。

(2) 労働者の経験年数 0  $E[w | w > b]$

1  $E[w | w > b]$ 以上

(3) 経験年数が等しい労働者間で見ると



(4) 経験年数を一定に保つことなく、労働者間で見ると

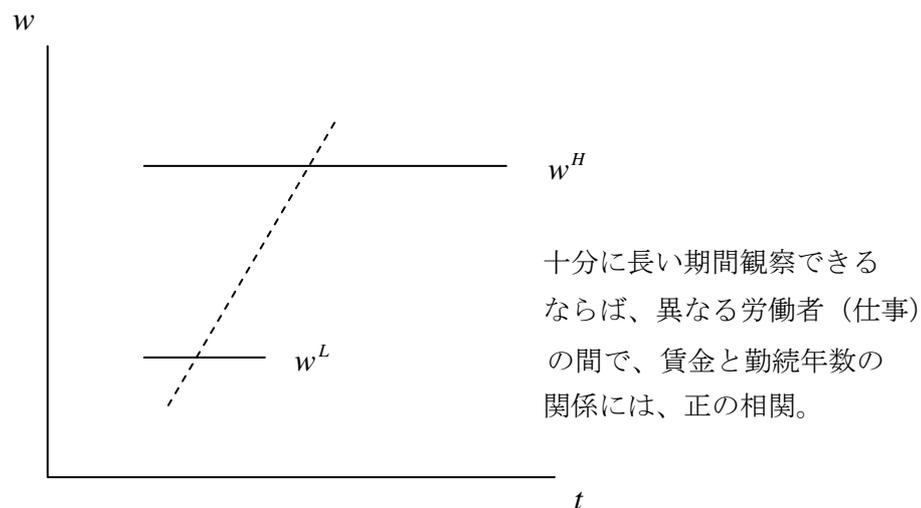
賃金は勤続年数と正の相関を持つ可能性あり。

(d)と(a)&(b)

→ 現企業で高い賃金を支払われている

労働者は、他の労働者に比べて  
他企業が現企業の賃金を上回る賃金を提示する  
確率が低く、現企業で働き続ける確率が高いから。

図による説明



しかし、そうでないと  
最近  $w^H$  の賃金を支払う仕事  
に転職したばかりの高い賃金  
と短い勤続期間の労働者が  
観察されるだろう。

### 13.3 経験年数、勤続年数、離職率

- (1) 同一労働者の離職率は、経験年数とともに低下。
- (2) 経験年数が等しい労働者間で見ると、  
離職率は、勤続年数と正の相関を持つ。
- (3) 経験年数を一定に保つことなく、労働者間で見ると、  
離職率は、勤続年数と負の相関を持つ。